

共生する島

安房小 五年 一組 赤松 始

「ゴリーリー」

この千尋の滝の水の落ちる音は、滝の見える少し離れたところでも聞こえてきます。

この千尋の滝は、巨大な花こう岩の岩盤を

水がけずり、できた滝です。私はこの滝は

長い年月をかけて今の形なっているのだなと

思いました。今から百年後や二百年後にはや

のようにはけがらわっているの知ろう。

「千尋の滝」の名前の由来は、「昔

々人の長さの単位「尋」を十人分重ねたほど大

きいからだとさうです。実さいは岩盤の長さは

四百メートルです。私四百人分の長さなんて

びっくりしました。

降水量が多いときは、滝のふもとに霧が出

てきます。それに、滝だけでなく、晴れのと

きも滝の水は少ないけれど滝の空が、とても

にあつていてびちりとも、とてもきれいです。

びちりかかれば見れたり、気持ち良くなります。

数年前まで遊歩道がありましたが、
ここにはとても長い階段があり、
滝の日の前にまである橋に
続いていました。しかし、
大型台風などの自然の影響で
今はもう危険なので、
追行止めになっています。

当時、私は家族とこの遊歩道をおとす
かえりました。橋までたどり
ついて、滝からほどいい
ところマイナスイオンを浴び、
そこで始まりました。下、
たぶん上らないといけ
ないので、景色を楽しみ
より、足元に注意しながら
上って

ヤきました。すると、先頭を歩いて
いた、母と妹たちの前に、
サルが現れました。妹は
すぐに後ろにいた父の所に
かけよりました。母と祖母
と下の妹が、サルのいかく
されていきました。母は、
妹がかまれないように、
自分の足か祖母をタテに
するから、一レヤン考
えているうちに、後ろの父
が棒を待って、反撃すると、
森の中に去っていきま
した。元の後、サルがこ
ないか警戒しなから、
全員棒を待ちながら上
かからない足にむちうち
ながら早足で帰って

行きました。

だれもかまわなくてよかつたと思ふ半面、サルにしてみれば、自分たちのすみかにしん入されて怒っていた。ただそれだけなんだろうなと思ひました。それによつて10月の下旬ごろでその時は、サルの繁殖しよく期でもあり、人に対して攻撃的になつていたのだと思ひます。サルに出会つたら、「刺激しない、目を合わせない、エサを与えない、走つて逃げない、安全な場所へ移動する」ことを心がけます。

道路上で出会うサルは、おだやかな印象です。野生動物は、本能で向かつてくるので自然や動物と共生する島のくらしを、大切にしていきたいと思います。